

令和 2 年 6 月 8 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02641

研究課題名（和文）近代中国の知識人群像 日中15年戦争期の民国教科書編纂事業と三人の作家について

研究課題名（英文）Modern Chinese Intellectuals: About the Textbook Editing business of the Republic of China and the Three Writers during the War of 15years of Japan and China

研究代表者

今泉 秀人（IMAIZUMI, Hideto）

大阪大学・言語文化研究科（言語社会専攻、日本語・日本文化専攻）・准教授

研究者番号：00263343

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,000,000円

研究成果の概要（和文）：1933年から1939年ごろまで楊振声、朱自清、沈從文が中華民国政府の委託による国語教科書編纂事業に従事した。この三人はいずれも著名な作家であり、また、文芸編集者であり、大学教員でもあった。この国語教科書編纂事業が行われたのは、中華民国において教育、国語、文学、大学の制度化がほぼ同時に進行していた国民国家生成期であった。本研究は、日中全面戦争開戦後の三者の行跡を綿密に照らしあわせることによって、中華民国における学校教育における国語と新文学の関わりについて明らかにするものである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、これまでの中国現代文学研究における個別作家研究と流派研究を脱構築しながら融合し発展させるものであり、作家相互の人間関係を社会相や時代相（特に諸制度）の中にとらえ、そこから個人の内面と社会との関係を解明しようとする意図を持つものである。複数の作家が個別的に行った行為や言説と、協働した事業や教学などの仕事とのあいだにはどのような関係が見いだされるのか。特に協働的な仕事为国家体制と結びついた際には、そこで個人に如何なる内面の機制がはたらくのか。知識人の複雑な内面の軌跡のトレースを、民国時期から、複数の作家の関係性に即して実証的に展開した。

研究成果の概要（英文）：From 1933 to 1939, Yang Zhensheng, Zhu Ziqing and Shen Congwen were engaged in the textbook editing business commissioned by the Republic of China government. All three were prominent writers, literary editors, and university faculty. This Chinese / national language textbook compilation project was carried out during the nation-state generation period when the institutionalization of education, national language, new literature, and universities was proceeding almost simultaneously in the ROC. This study clarifies the relationship between national language and new literature in school education in the ROC by closely comparing the traces of the three people after the start of the Japan-China War.

研究分野：中国現代文学

キーワード：国語教科書 新文学 作家 知識人 大学

様式 C-19、F-19-1、Z-19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究の背景となる先行研究として、近代中国における知識人のあり方については思想史の分野で、李沢厚「啓蒙与救国の双重変奏」(『中国現代思想史論』1987)、余英時「中国知識分子的辺縁化」(『二十一世紀』6、1991)などが存在し、特に主体性の問題に関しては劉再復「中国現代知識分子歴史角色的変遷」(『放逐諸神』1994)があった。これらの論考が扱った問題は近代中国を貫く重要なテーマとして21世紀に引き継がれていた。

(2) 教科書編纂事業の主体となった国民政府国防設計委員会の成立過程と役割については盧勇「早期抗戦的重要機構 国防設計委員会述略」(『抗日戦争研究』3、2009)があり、近代史の分野で基礎的な整理が始められていた。

(3) 作家の事跡や伝記の研究では、楊振声に関しては季培剛『楊振声編年事輯初稿』(2007、2015に改訂版)が、朱自清については姜建・呉為公『朱自清年譜』(2010)などいくつかがあるが、教科書編纂事業との関わりについてはどれも詳しくない。沈從文に関しては Jeffrey C. Kinkley, *The Odyssey of SHEN CONGWEN* (1987)、凌宇『沈從文伝』(1988)を嚆矢とする数多くの専門研究がある。しかしながらやはりこの問題に突っ込んだ考察をしたものは見あたらない。

(4) 近代中国における学校教科書については並木頼寿・大里浩秋・砂山幸雄編『近代中国・教科書と日本』(2010)があり、近年特に制度の問題などについて研究が進んでいる。そのほか国語教科書に関しては中国に多くの蓄積があるが、本研究の対象とするものについては僅かに李伯裳『小学語文教材簡史』(1985)、閔蘋・張雯編『民国時期小学語文教科書評介』(2009)が触れているにとどまる。

(5) 申請者は(1)に関わるものとして、伝統的な士大夫意識が20世紀の作家たちにどのように接受され変質していったかという問題を通して、近代中国における「書くこと(writing)」の意味について提起した。(2003)(2)と(3)に関しては、沈從文研究の一環として本研究の前提となる考察をおこなった。(2014)また、教科書編纂事業と後の西南聯合大学での教学との関係については、1940年代の「中国語圏」の文学状況に関する共同研究を行ったことが、本研究の展開にとって重要な役割を果たした。(2008-2010年度、2011-2013年度科研)ここで得られた「教科書編纂事業が1940年代の「新文学アカデミズム」に結びついていく」という仮説が得られたからである。(2015)さらに(4)に関わる考察として、事業に従事した三人の、教科書編纂をめぐる状況とそこで実際に編集・出版された小学国語教科書について基礎的な整理を続けていた。(2014-2015)

2. 研究の目的

(1) 知識人が国家体制との関わりの中で、いかなる主体性のもとに自らの身分や仕事を認識し、それに携わるのか、という問題は、私たちの世界に普遍的に存在するテーマである。中国においては近代以降の知識人が、伝統的な「士大夫」の有していた「以天下為己任」という意識を受けついただため、このテーマは現在においてなお独特の重さを持つ。本研究の目的を最上段に構えれば「近代中国における知識人のあり方」を解明する、ということになる。

(2) 本研究は、日中十五年戦争期(1931-1945)に民国政府直轄の戦略的国防事業として行われた国語教科書編纂事業に着目し、この事業に手を染めてから後に西南聯合大学で新文学を教授した三人の文学者の事跡と言説を追うものである。そこから彼らそれぞれの自己認識を明らかにすることを目的としている。

3. 研究の方法

(1) 資料の収集・整理

近年の論考を中心とした楊振声、朱自清、沈從文関係文献の収集・整理を行った。具体的には最新の研究文献目録を基に、特に今世紀に入ってから発表された論文の収集と整理を行った。沈從文と楊振声が、その後北京で教科書編纂に手を染める契機となった直接の原因は青島大学時期(1931-1933)の両者の関係にある。青島大学学長と文学院講師という関係において、二人がどのような交流をしたのか、現地に赴きその事跡をたどり、関係資料を収集した。また、特に中国・台湾において中華民国政府教育行政および民国時期教科書関係文献を集めた。中でも、中華民国(台湾)国立編訳館が所蔵する、特に楊振声と沈從文がその編輯に関わった、国立編訳館主編『小学校高級用 実験国語教科書』(1936)の貴重な印影を得たことが本研究プロジェクトの最大の収穫であった。

(2) 仮説の妥当性を検証するための研究報告・討論

日本における青島文学関係の研究グループである「青島文芸研究会」(代表：斎藤大紀)で研究報告の講演を行い意見交換を行った。

(3) 論文および研究発表

主として沈從文が教科書編纂事業になぜ関わったのか、という問題について、近代中国における国語の成立・成熟課程における文学の役割、という観点から述べた。その中心となるポイントは、①国語運動と文学革命の関係について、②沈從文をめぐる人間関係の形成とその“場”としての大学、③作家・編集者・大学教師という“三位一体”的存在形態、④『小学校高級用 実験国語教科書』、⑤民国教育行政と大学「中文系」との関係、である。

4. 研究成果

(1) 本研究の対象を最上段に構えれば「近代中国における知識人のあり方」ということになる。直接的には、まず時代背景として、日本の対中武力行使が一貫して続き、それに対する斥力として中国のナショナリズムの輪郭が形成されていった十五年戦争期を範囲とする。事象としては、1933年から始まった、中華民国「国防設計委員会」による文化政策として行われた小中学校教科書編纂事業をとりあげる。楊振声(1890-1956)、朱自清(1898-1948)、沈從文(1902-1988)という三人の文学者がその事業になぜ従事し、国語教科書編纂に如何に関与したか、ということ、彼らの言説や行動を調査・分析することによって明らかにした。

(2) さらに、彼ら三人はこの事業の終結とほぼ同時期から、当時雲南省昆明で発足した国立西南聯合大学で共同して「新文学」の教育に携わっていたことが明らかになった。楊、朱、沈はいずれも近代文学史に名を連ねる存在であり、特に沈從文は同時代文学を牽引する影響力を持つ有名作家であった。彼らはこのような立場から、アカデミズムの中に五四以降の新文学の学術的価値を確立しようとしていたことがわかった。

(3) そもそも近代中国における国語と新文学は、その成立当初の1920年代から「国語の文学、文学の国語」(胡適)がスローガンとされたことからわかるように、密接にして不可分の関係に置かれていた。よって作家が国家体制との関係において、国語の制度化に直接的な関与をしたり、アカデミズムの中で新文学に主体的に関わることの意味は大きくかつ深刻である。国民国家形成過程における国語、文学、教育の制度的な伸展が作家の身分や自己認識にどのような影響を与えたのかについて、少なくとも沈從文についてはある程度実証的に跡づけることができた。

(4) さらに、国語教科書編纂事業という満洲事変を契機とした国防プロジェクトを担った三人の文学者の事跡を、1940年代という視野の広がりから捉えなおすことによって、それが日中全面開戦(盧溝橋)後の西南聯合大学における「新文学アカデミズム」に結びついてゆくものであったという事実を明らかにできた。

(5) 本研究の大雑把な結論として、教科書編纂事業に関わった三人の文学者の個別的背景と教科書編集および大学教学における役割分担を示す。

・楊振声 生年：1890、学歴：北京大学・アメリカ留学

国語教育…積極的、新文学創作…消極的、大学行政…極めて積極的

・朱自清 生年：1898、学歴：北京大学

国語教育…極めて積極的、新文学創作…積極的、大学行政…消極的

・沈從文 生年：1902、学歴：高等小学校

国語教育…消極的、新文学創作…極めて積極的、大学行政…消極的

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 今泉秀人	4. 巻 667
2. 論文標題 満洲から北平へ 鍾理和の中国大陸における事跡について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 立命館文學	6. 最初と最後の頁 52 - 65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 1件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 今泉秀人
2. 発表標題 “郷土文学”の来し方行く末 現代中国文学の立場から
3. 学会等名 日本比較文学会第80回全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 今泉秀人
2. 発表標題 沈從文の“ミャオ族幻想”について
3. 学会等名 台南研究集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 今泉秀人
2. 発表標題 中国語が若かった頃 沈從文と鍾理和
3. 学会等名 本比較文学会第81回全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 今泉秀人
2. 発表標題 郷下人と原郷人 沈從文・鍾理和比較研究序説
3. 学会等名 青島・重慶文芸研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 Gang Zhou, Jeffrey C Kinkley, Sihe Chen (Imaizumi Hideto)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 306
3. 書名 Routledge Companion to Shen Congwen ("Dreams" and "Reality" in Shen Congwen's Wartime Works, with Special Focus on "Dreams and Reality" (1940), "Plucking Stars" (1943), and "Gazing at Rainbows" (1943))	

1. 著者名 陳思和主編（今泉秀人）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 上海交通大学出版社	5. 総ページ数 312
3. 書名 全球視野下的沈從文（戦争時期下沈從文作品中的“夢”与“现实” 以《夢与现实》（1940）、《摘星録》（1941）、《看虹録》（1943）为中心）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------	---------------------------	-----------------------	----